

RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の 王の

熱い指にとかされて

1

乙女ドルチェ・コミックス





セシリア・アルバーナ

「自分より優れた男の
妻になりたい」という
言葉が真実ならば

RIN SUMERAGI
皇りん
原作／池戸裕子

俺と剣で
手合わせ願いたい

～熱い指にとかさされて～

淫愛の玉



灼熱の王



王様が
リオン王子を
見放している

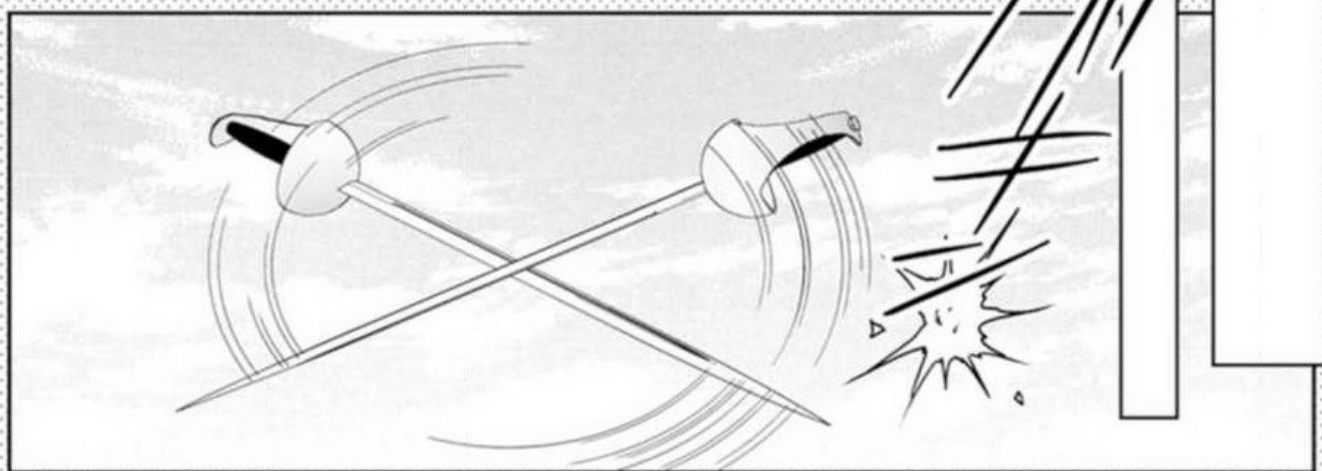
という噂は
本当だったのね



準備の時間もとらず
練兵場で結婚式
なんて

そうでなければ
ありえない……







おまえには前から
興味があったんだ

今思い返しても
あんな求婚は
初めて——：






誰もが羨む
美女なのはもちろん



自分よりも優れた
男になら嫁いでも
いいと公言する



容姿を理由に求婚
してきた過去の
男たちとは違う

傲慢で生意気な
ところがいい

もしかしたら
この男だけは
本当の私を見て
くれる……？



おまえ
セシリア様に
求婚したって？

ああ

なんたって
アザン1の美女
だからな



隣にいてくれる
だけで十分箔が
つくってもんだろ



だって
セシリア様と
仲良くして
損をすることなんて


ひとつもないわ

うんざりだった
肩書きしか求めて
いない男たちも



あの方と仲良し
というだけで
男性からは特別扱い
してもらえるし

そりゃそうよ！




セシリア様に
フラれた男たちって
好条件ばかりだもの

その中の誰かと
私が結婚するわ

信頼していた
友に裏切られる
ことも……

だからこそ
今までの誰とも違う
この男に賭けて
みたい

わかりました



私もあなたが
夫と足る人物か
見極めます



リオン・ハルバトス
だったなんて……

その相手が
アザン国の王子
のひとり



そして
もうひとりの王子
弟のダイス様

文芸に秀でた
才を持ち

何より
本妻の子である彼を
次期国王に推す声は
兄の勢力より大きい

型破りと言われ
国務より軍務を好み

王家の儀式や
公の式典などには
まるで顔を出さず

ふだんは国境を守る
砦を転々としている
リオン様



そもそも子爵の娘が
王子と結婚なんて
不釣り合いすぎる
のよ……

私は王妃に
ならないのであれば
少しは気が楽だけど……



跡継ぎを決めるのは
お父上の現国王だけど

リオン様は
どう思っ
ていらっ
しゃるの
かしら……?



…あれは
面倒な役目は
弟に押しつけて

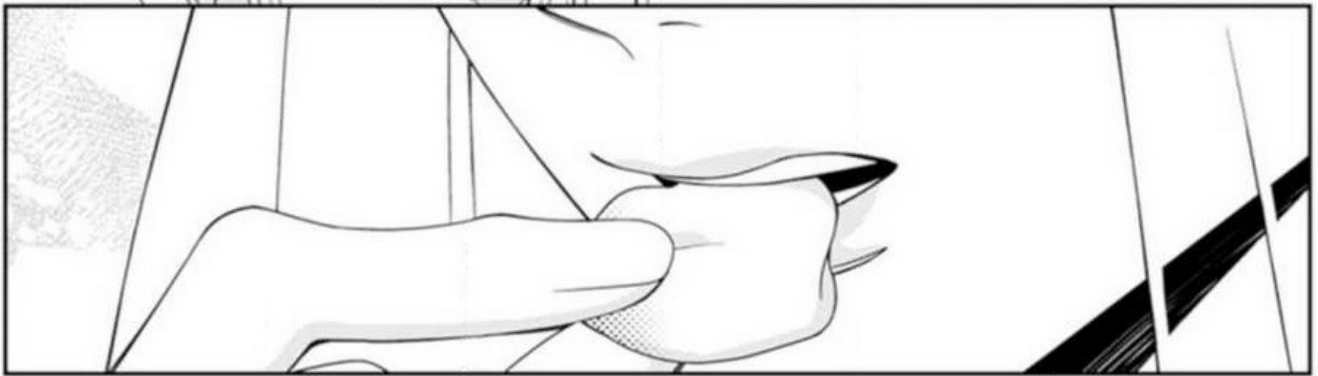
自分は気ままに
遊んで暮らした
いって顔ね

今まで耳にした
リオン様の
掟破りな行動は

総じてよい結果に
結びついていること



...でも
不思議なのは



不思議な人...



仲間たちと
居座って奪った
というお店も

あとに聞くと
あたり一帯地上げ
される予定で

結果的に民の
住まいを守って
いたり...

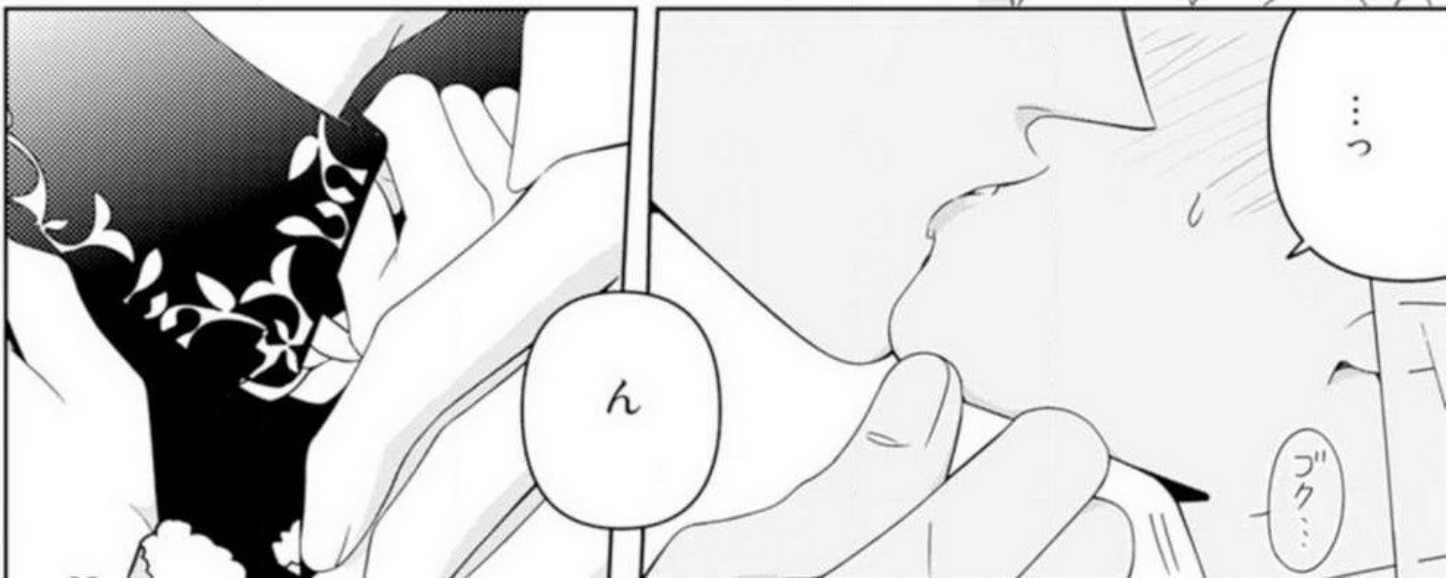


…やけに甘い

こんな気持ち
初めて…

セシリア

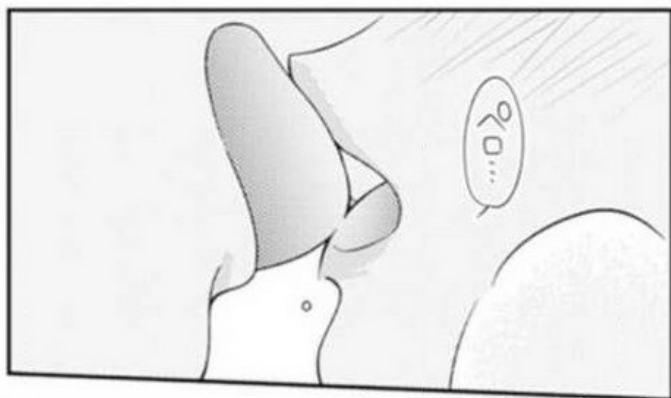






何……？

この指先から
溶けていくような
感覚は——…



いい顔を
していたな



放してっ!!











.....
や
あ.....



身体中すべて
愛さずには
いられないほどに...



きれいだ
セシリア

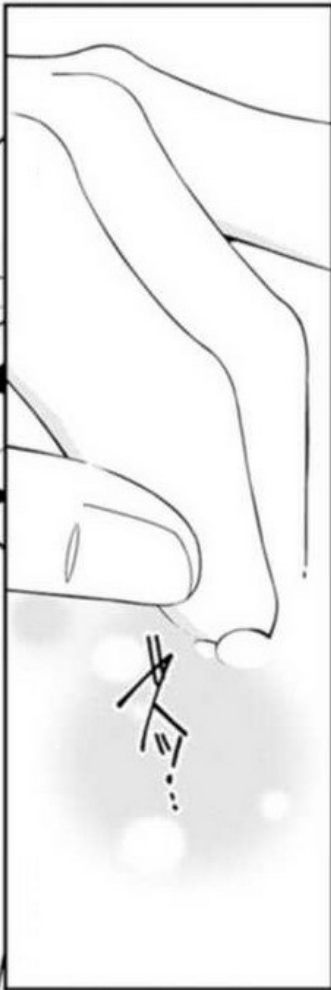


!!

自分の身体が
どうなっているか
わかるか?



ん...?



ん...?



あ...?

リオン...?

RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の 王の

熱い指にとかされて

2

乙女ドルチェ・コミックス





はあ

……



俺を受け入れて
いる証だ



……



あ……や



ほら

もっと声を
聞かせてくれ



あ……は

苦しいほどに
快いか？

苦し……
リオ……ン



リオ……ン


ハッハッハッ



あれほど感じて
かわいく喘いで
くれるとは


安心した

……っ




今日はほんの
挨拶みたいな
ものだからな

挨拶？




あなたのものに
なりたいと俺を
欲しがるとまで

俺たちは
ひとつにならない



…欲しがるとなんて
そんな言い方



心も身体も一緒だ
セシリア



この身体が俺を
欲しがる時は

おまえの心が俺を
求めている時だ



リオンはなぜ
私を妻に選んだ
の……？

それにしても



え……？



もし彼らしい愛情を
感じられたなら私は
……

実にいいモノが
手に入った



俺が持つ
どの高価な
モノよりも

おまえの美貌は
高値がつく

王家のやっかい者
はみ出し者と俺を
バカにし蔑んだ連中も

これで変わるな

モノ？

私のことを
モノと言った？

高値なんて
本当に売り買いする
品物みたいに……



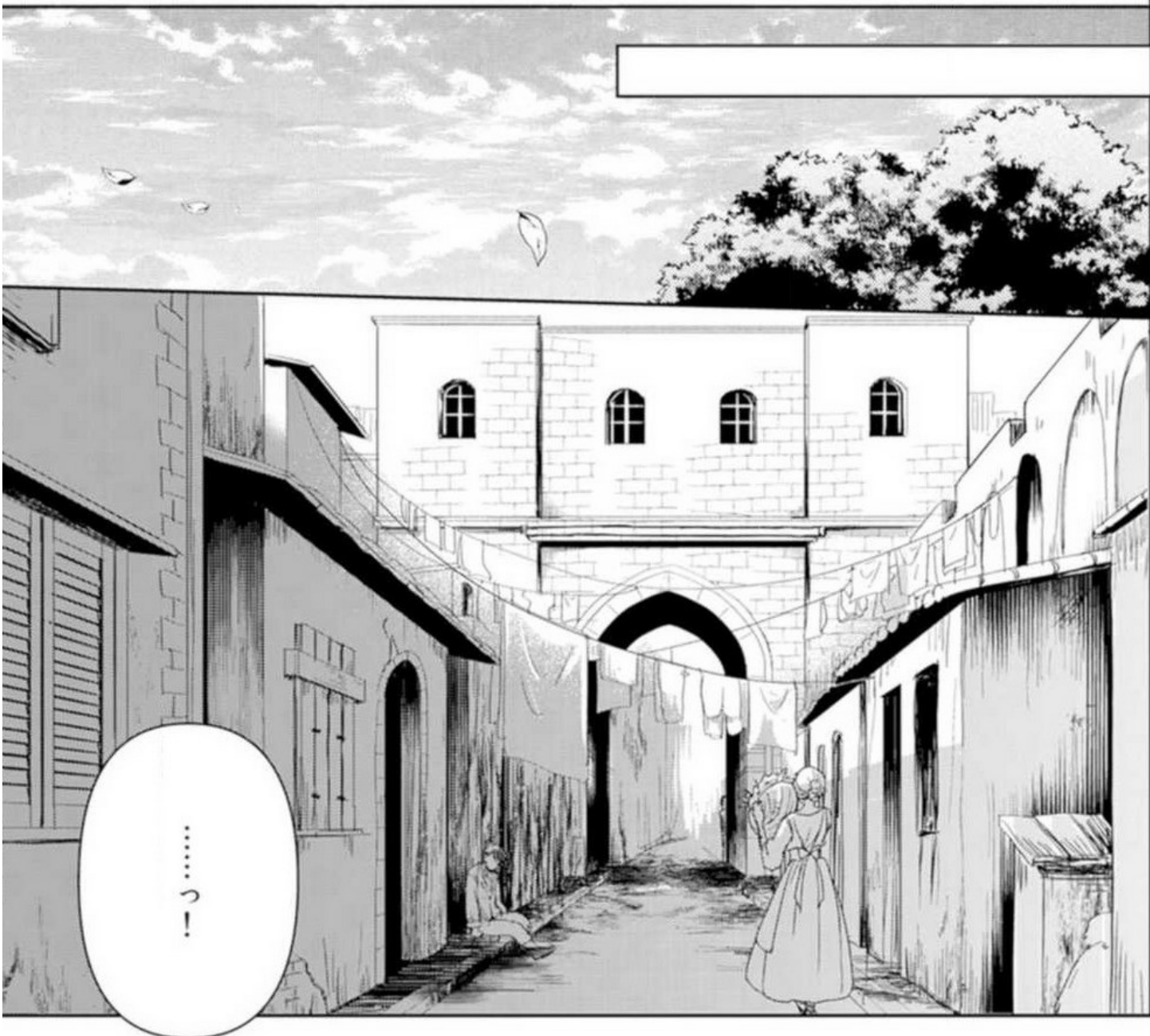
やっぱりあなたも容姿だけが目当てだったの——…？

傲慢で生意気な
ところがいい

あなただけは違う
なんて期待して
バカみたい……



こんな胸の痛み
今まで感じたこと
なかったのに……



この者たちは皆
同じ病に苦しんで
いるのですか？

そうだ

急ごしらえで
建てた小屋だが

ここに集めて
治療している

今まで知らなかった
アザンのもうひとつの
顔……

汚れた井戸水が
原因で 放置すれば
半数は死ぬ

十数年前
流行った時には
助かるものまで
死に至り

甚大な被害が
出たんだ

どうだ？
少しは食べられる
ようになったか？

王子様が
お力添えくださる
からでございます

へえ
おかげ様で

歓迎されている
この様子を見れば
わかる

同じ過ちを
繰り返さないよう
リオンが寄り添って
きたのだと……

俺は医者を頼み
食事を用意した
だけだぞ

…俺の母は
貧しい家に
生まれたが

縁あって
裕福な商人の養女
となった女だ

学はないが
分をわきまえた
人だった

そんな母が
亡くなる前に
言ったんだ

分相應を忘れずに
生きなさい

あなたにしか
できないことを
見つけて

王に感謝し
善く尽くし
仕えるのですよ
……

——と

その、自分にしか
できないこと、
というのが

この働き
なのですね

もう何があっても
驚かないと決めて
いたけれど……

そうだ

こんな一面が
あったなんて
……

この方こそが
真に王となるべき人

あっ

…っ

大変……!!



大丈夫ですか？

申し訳ありません

さあどうぞ

…セシリア……



やはりおまえを
連れてきてよかった



?

何?



リオン……?

?

俺はますます
おまえが気に入った



なんでも
聞いてくれ

ひとつ
知りたいことが
あるのだけれど



弟のダイス様が
選ばれるよう
仕向けたのでは
ないですか？

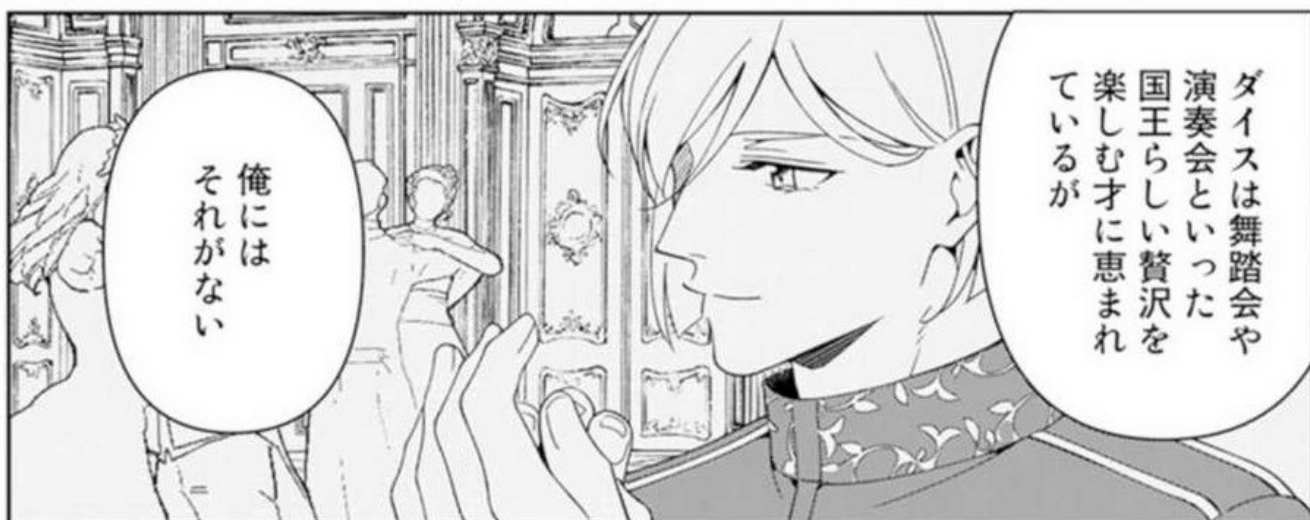


……別に
俺は今のままだ
いいだけだ



国王様が跡継ぎ
選びに悩まれて
いた時期

あなたはあえて
奔放に過ごすことで



ダンスは舞踏会や
演奏会といった
国王らしい贅沢を
楽しむ才に恵まれ
ているが

俺には
それが無い



兵士たちに
囲まれた生活が
居心地いいんだ



……そうよね
あなたらしい

でも……

リオンが
日陰の道を歩いていく
なんてもったいない

表舞台で活躍
できる人なのに
——…



そう感じて
苦しくなるなんて
どうして——

あつぱんていびり

来てくれたのねえ
王子様



この女性
リオンのことが...

ずいぶんと
かわいらしい人を
選んだのね



元気そうだな

こちらが
評判の奥方様？

セシリアだ



…セシリア様は

暴れ馬のリオン様を
上手に乗りこなせて
いるのかしら？



安い挑発だと
わかつては
いるけれど……



ご心配には
及びませんわ

どんな暴れ馬も
私の手にかかれば

やがては跪いて
この足に頼ずり
するの

そうでしょ？
リオン

カッ



では
お先に失礼

ああ

身分の違う者たちと
垣根を作りたくない
気持ちはわかります！

善いことだと
私も思うけれど！！

妻の私を
侮辱するようなことを
言う者との付き合いは
慎むべきでは!?

嫉妬か？



嫉妬…？
このもやもや
した感情が…？



……違うわ

しよせん私は
見かけ倒しの
妻だもの……

助け船も出さず
見ているだけの
あなたは

さぞおもしろかった
でしょうね

悪かった





おまえが伴侶として
毅然と振る舞う姿が
嬉しくて

邪魔をしたく
なかった

リオン…？

なぜそんな
熱い目で
私を見るの…！

セシリア

やはり
おまえはいい



どんな女にも
こんなふう
に追い詰められたり
しなかった



どうすれば
いい？

な……っ

ちやっと！
リオン!?
どこへ……!!

確かこの近くに
あったはずだ

何待って

リオン！

悪いが

…今の俺に
屋敷まで戻る
余裕はない

俺はこんなにも
おまえに飢えている
んだぞ

わかるだろ？

お願い
……やめて

リオンの熱が
……

焦らすなよ

俺を満足
させられるのは
おまえだけなんだ

違う……

焦らすような
余裕があるわけ
ではないの……

そう何度も
おまえだけだと
言われると

本当に愛されて
いるような気が
してしまうから
……

あ……

ズレ……

あの女のことは
気にするな

RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の 王の

熱い指にとかされて

3

乙女ドルチェ・コミックス



何もない

んっ

ん……っ

セシリア・アルバーナ
を知ってからは

おまえだけだ

かつては
こういう場所で
遊ぶバカもしたが

はあ

リオン……
あなたは
ずるい人だわ

本気で
私を愛してなど
いないくせに

実にいいモノが
手に入った

惑わせたり
しないで

俺が持つ
どの高価な
モノよりも

おまえの美貌
は高値がつく



これだけ溢れて
いれば平気か

十分に慣らして
やれなくて悪いが

俺は今すぐ
おまえが欲しい

セシリア

おまえだけが…っ

あ……!?

やめて…っ

い…や…!!



0000

痛むのか？



セシリア…？

……約束を
忘れたの…？

私が求めるまでは
ひとつにならないと
言ったのは嘘——？



……っ



俺が欲しく
ないか…？

欲しいと
言ってくれ
……セシリアっ

このまま快感に
身をゆだねて

愛されないままに
抱かれてしまったら……



擦ってるだけで
こんなに
溢れさせて

リ……オン

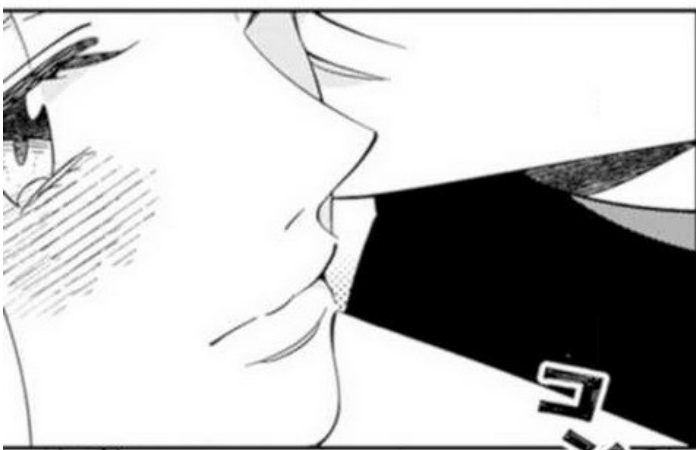
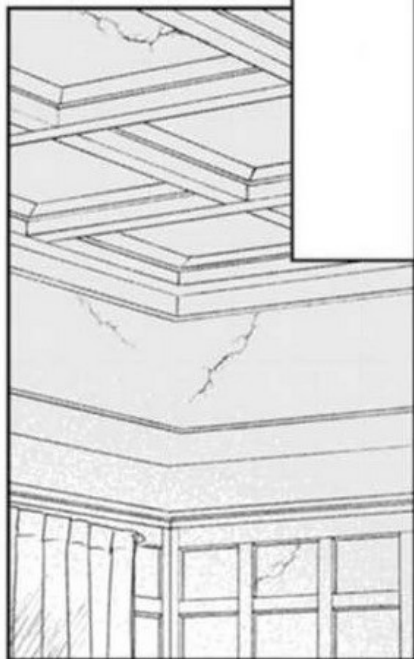
見られて
恥ずかしいのに

リオンを
求めてしまう……!!

おまえも本当は
俺が欲しくて
たまらないくせに

セシリア——…っ







…ヤンか

どうした?



これより
館へ戻り

迎え支度のご指示を
いただけますか



ダイス様からの
御使者が
参りました

明朝早くに
お着きになる
とのこと



兄上

父上はついに
ご決断された
のですよ

次期王に
なるべきなのは
この私だと

ようやくわかって
いただけました



それは
よかったな

ええ

あとは
布令が出るのを
待つばかりです

…しかし
兄上もわかって
いらしたことでは？

王妃とするに
ふさわしくない
身分の女性と結婚が
許された時点で

ぎゅ

私のことは
どう言われても
かまわない
けれど
それを理由に
リオンが貶め
られるのは……



ところで兄上

申し訳ないが
今撃ち落とした鳥を
代わりに拾ってきて
くださいませんか？

!?

なんて
無礼なの…！

リオンに
従者の真似ことを
させようなんて
……!!

先ほど獲物を
探しに行ったきり
従者が戻ってこない



ダイス様
それはあまり
にも

仕方がないな

…っ

我が弟殿の即位だ
前祝いも兼ねて
あの鳥を拾って
くるとしよう



リオン…！

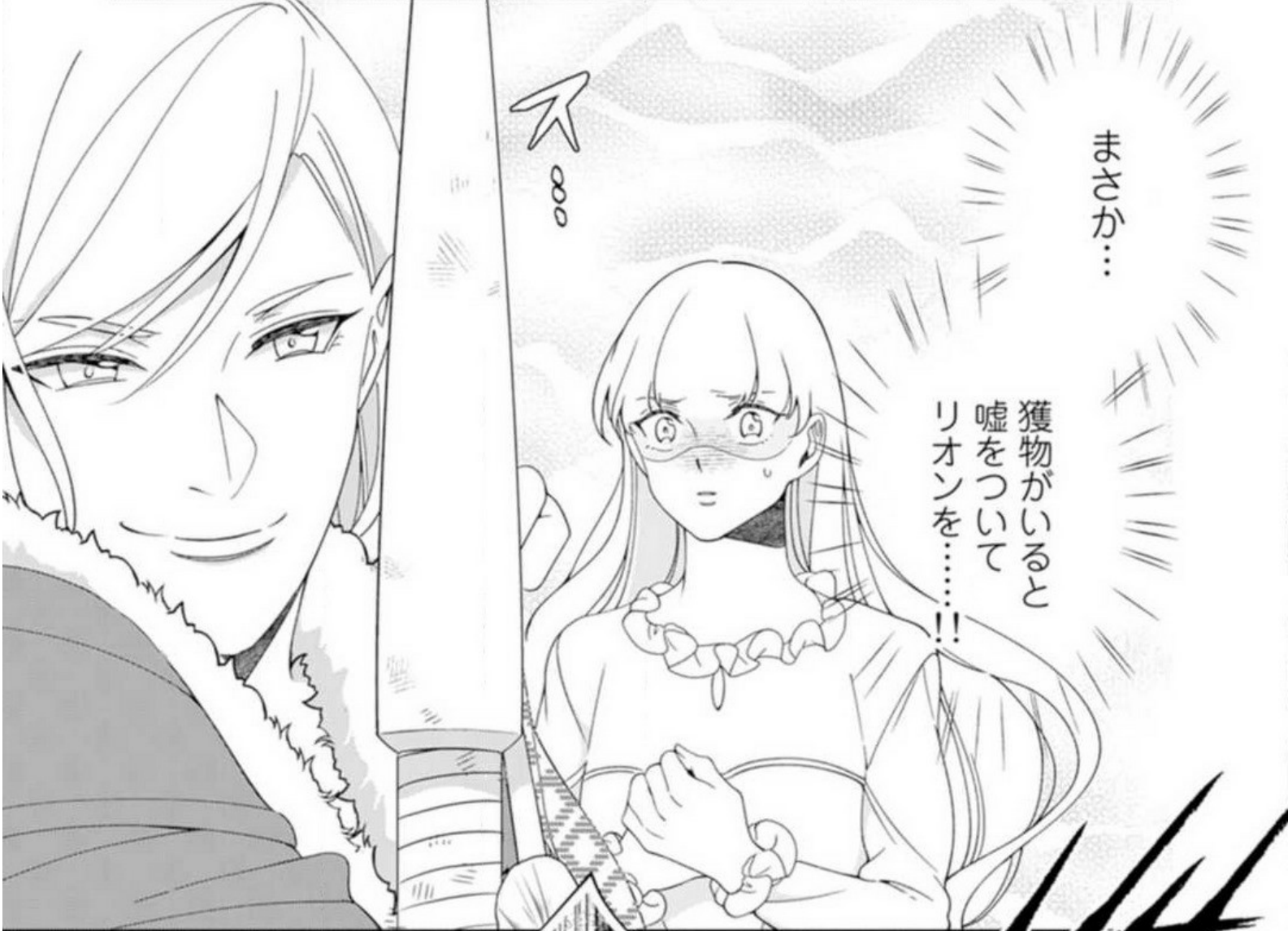
なんて酷い人
なの…！

おい見ろ 鹿だ！

兄上が
消えたほうに
鹿がいたぞ！

鹿…？

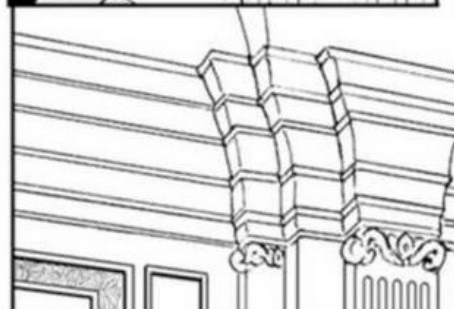
ガサガサ





何針も縫う
ようなことに
ならなくて

本当に
よかった……



え？



むしろ
気持ちがいい

傷は浅いから
数日で塞がる
はずだけど

…痛む
わよね

何をのん気なこと
言っているのです!!

カッ

愛する妻が
手当てしてくれた
と思えばな

あとはキスの
ひとつでもあれば

痛みなど
すぐに吹っ飛ぶ

どうした?
怖い顔をして

ダイス様が
遊びたがっていると
リオンは言ったけれど

あの方の遊びとは
兄のあなたを愚弄する
ことですか？

臣下のように
扱うどころか

獵犬の真似事
までさせて……

リオンへ教えに
きたんだわ

その怪我だって
わざとよ……!!

王になれば
自分の天下

兄の命ですら
握りつぶせる
のだと

あなたも
わかってる
のでしょ
う？

確かに
ダイス様は
リオンに謝
った

身体を気遣
い心配する
そぶりも
じていたけ
れど

その眼差
じは冷徹
なもの
だったわ
……

ぎゅ

リオ
ン

次の王
にはあ
なたが
なるべ
きです

ダイス様は
目的のためなら手段を
選ばない冷徹な人よ

そんな人が王になれば
この国の民はどうなる
と思うの？

どうか
お願いよ

リオン

この国の
者たちを

アザンを
見捨てないで

…俺の考えは
もうおまえに話した
はずだ

王となる資質を
兼ね備えたリオンが
自らその権利を
手放そうとすること

そうすること
その力を発揮する
機会が失われて
しまうこと

何より…

己の無力さを
実感させられる


セシリア

私は
悔しいわ…


リオン

私の言葉は
リオンに届かない
という事実が…


ザッ
アッ




俺に女の涙は
武器にならないが




ふざけないで…っ！



おまえだけは
違うらしい



お願いリオン！
もう一度よく
考えて！！

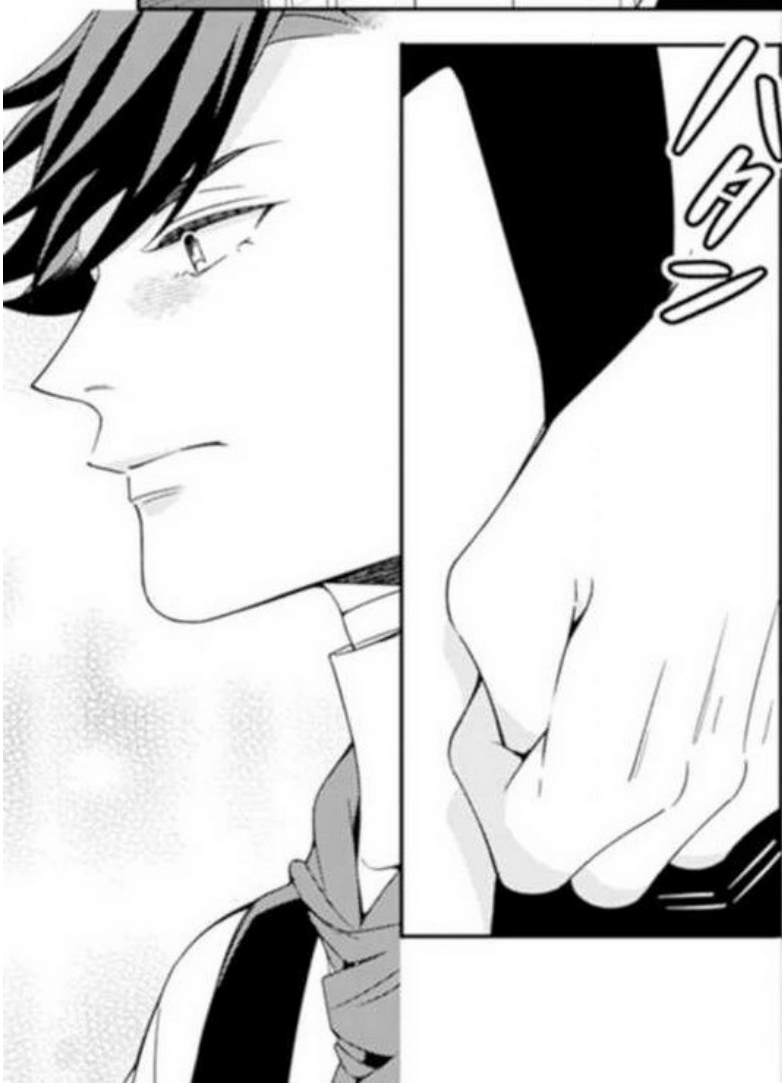


この国にとって
あなたにとって
何が最善なのか…！

これだけは……

リオンのためにも
絶対に諦めたくない

もう亡くなった
お母様の教えを
守るだけの子供では
ないはずよ



RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の 王の

熱い指にとかされて

狂愛

4

乙女ドルチェ・コミックス





おい待て
セシリア!!



そっちは川が
氾濫していて
危険だ!

来
ないで!!



私のことなんか
放っておけば
よいでしょう!?

アザンの民と
同じように

見捨てて
くださって結構よ！

見捨てない

おまえも民も
俺は見捨てない





彼に認められれば
父の俺を見る目も
変わるといふもの

…リオン!

おまえが俺を
変えたんだ

俺のために涙を流し
つねに全力で
ぶつかってくる

…私が?


嵐の中飛び出す
ような無茶まで
して……

…美しいおまえを
この国の男たちは
女神と呼ぶが

そのとおり
だった

何しろ王子ひとりの
運命を変える力を
授かっているの
だからな


…セシリア




俺に新しい運命を
まっとうする力をくれ



リオン……



女神と交われれば
強運を手に入れ
られると言うぞ？

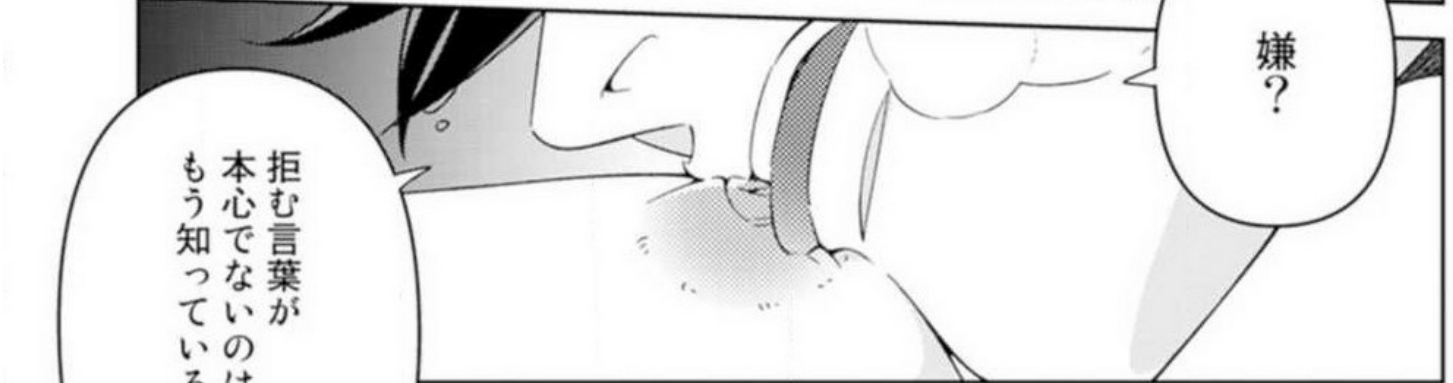


リオンはとも
……温かいのね

その冷えた身体を
俺が温めてやる
……



このキスに
夢中になって
しまう……



拒む言葉が
本心でないのは
もう知っているぞ

もっと早く
してやる

んっ

んっ
んっ

あッ

くちゃ
くちゃ

あぁ……っ！

リオン……

きっとあなたも
心の奥では

民人のために自らが
国を治めたいと
思っていたのよね

セシリア……！







あ……ん

はあ

どうか
俺に力をくれ
セシリア

リオン！

もう
ごまかすことは
できない

……もちろんよ

私
セシリア・アルバーナは





めずらしい……
あのガレ将軍が
笑っているぞ

あんなに
楽しそうな将軍は
初めて見たな

……なるほど

まずは城への
補給路を断ち

兵が飢えて弱った
ところを一気に
攻め落とそうと
いうわけですな

いや

攻めはせず
相手の自滅を
待ちましょう

時間はかかっても
味方の兵たちを
無駄に失わずに
済みます

戦力を温存するに
まさる勝利はない
でしょうから

よかった

うまくいってる
みたい……

……けれど
リオツが王に
なった時

本当に私が
そばにいても
いいの……？

……しかし
兄上もわかって
いらしたことで？

王妃とするに
相応しくない
女性と結婚した
時点で




これほど優秀な
ご息がふたりも
おられるのだから



あなた^んが王位を
退かれても

アザンの安泰は
約束されたような
ものですな




アザンには
永き平和と繁栄が
約束されている


リオ
ン

君が
この国の王と
なった暁には


カ
ッ



アザンを大陸一の
強国に育てる決意は
固いのだろうね？



……どちらが
跡を継ぐか



アザンと民人のため
この身も命も捧げ
全力を尽くすと誓います

それは王の決断に
すべてを委ねる
気持ちでおります

…が

もし私を選んで
もらえたなら



リオン……



リオン様が
王位継承者に
名乗りを上げてから

もともとあなたを
推したかった
有力者たちも声を
上げ始めました

そうか



朝早くから
どちらへ？





アザンは
その長い歴史の中で
領土を狙われてきた

最近ではリオンの
おかげでたいふ
落ち着いていただけ
……



兵も疲れて
いるようで

士気が
落ちているのを
心配した上官から

リオン様の
来訪を懇願する
書状が届いた
のです

セシリア

おまえも
俺と来るか？

よいの
ですか？

私と一緒にしたら
足手まといに……

リオン様は

妻となった
セシリア様を
見せびらかし
たいんですよ

どうするんだ
セシリア

嫌なのか？

いいいえ！
ぜひ連れて
行ってください！

リオンが
王になれば

彼といられる時間は
わずかになるかも
しれないもの……



今は少しの間も
彼と離れて
いたくない



RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の 王の

熱い指にとかされて

5

乙女ドルチェ・コミックス





ここで眠っている
仲間を慰して
やりたくてな

リオン……



アザンの
平和の裏で

犠牲になる
命がある……

平和は当たり前
ではないなんて
当然のことを

この目で
見るまで

まるでわかって
いなかった……

ごめんなさい
リオン……

この国の王に
なれなくて

何も知らない私が
口にするべきことでは
なかったのかも
しれないわ……

行くか

また
泣かせたな

リオン様!!

ウルマンです!!

ウルマン族の
奴らが来ました……っ!!!





おまえは
ここを動くなよ

なぜこの場所に
ウルマンが!!?

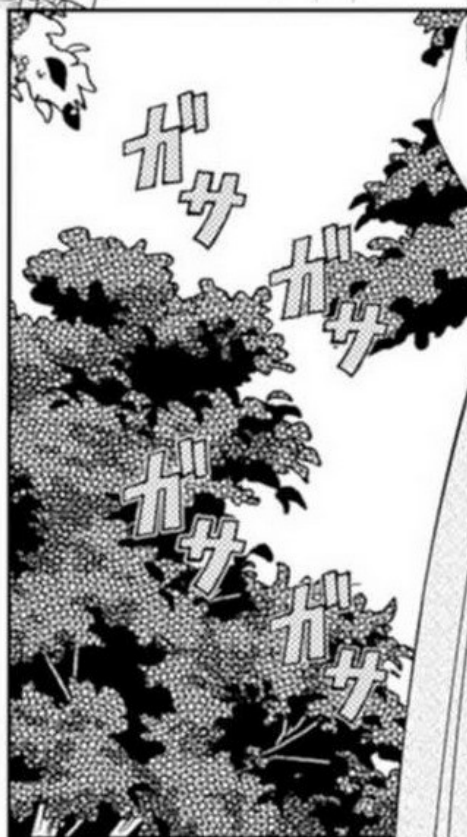


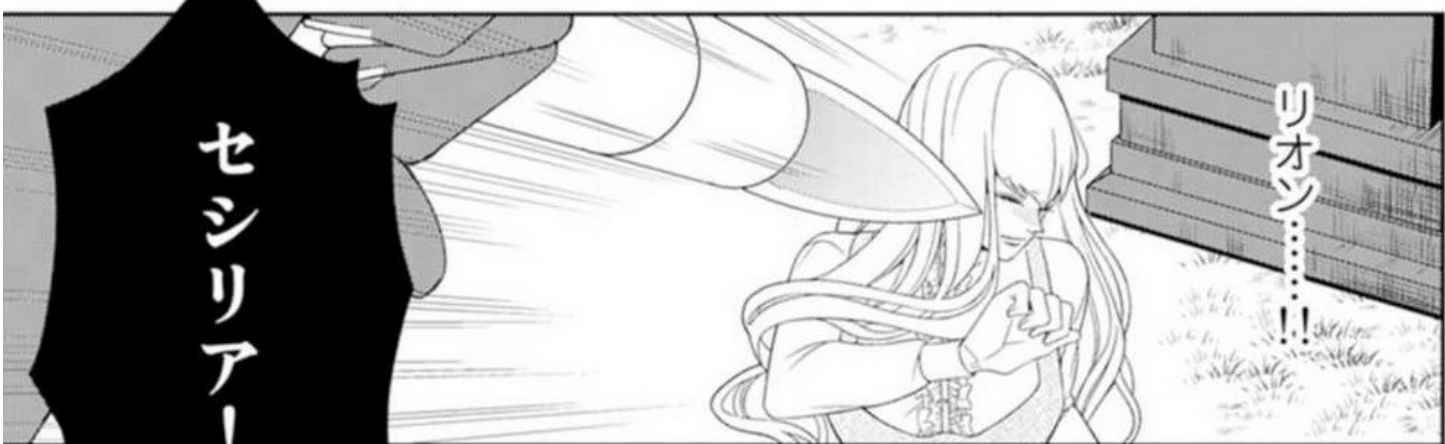
リオン...っ!



カキン

カキン





セシリア!

リオン……!!



リオン……!!

ドッ
ドッ

リオン様
ご無事ですか!?


お怪我を…!?

え?

これだけ
動くのだから
大丈夫だ

私を庇って…?

私……



無事で
よかった……

もしもおまえに
何かあったら
俺は……



リオン……

守ってくれて
ありがとう…



失礼いたします

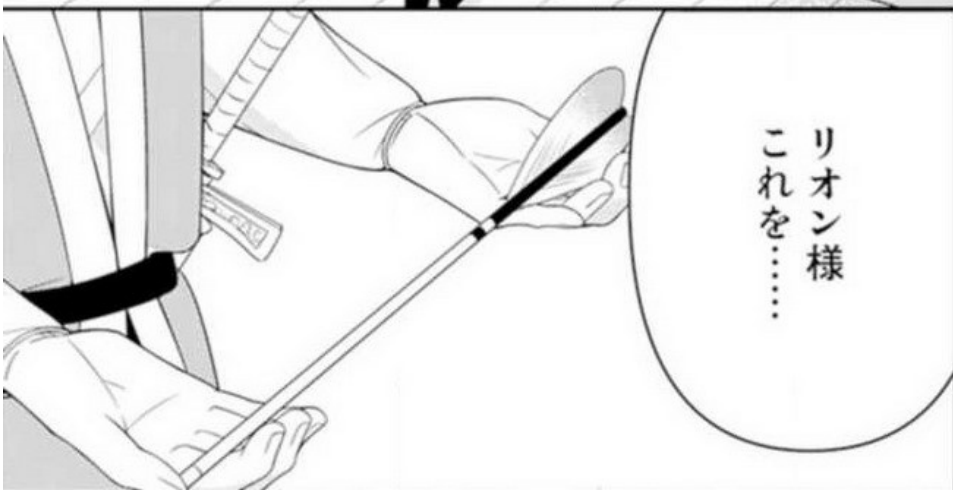


痛む？



リオン様
これを…

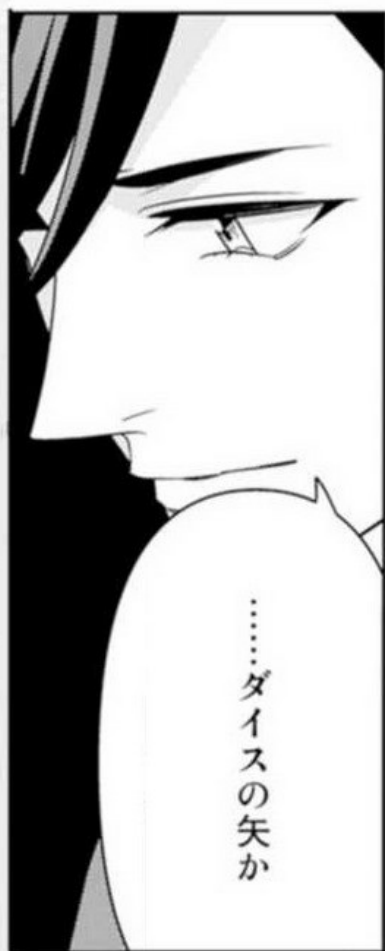
多少はな





ウルマン族と結託して
襲撃してくるとは

愚かな奴だ



……ダイスの矢か



リオン……



アイツは
戦になど出ないから

人や部族によって
矢の特徴が違うなど
知らなかったのだろうか

連中のひとり
を捕まえたのなら

アザンに
連れて帰り
父上に翻意を促す
切り札として使うぞ

ヤン おまえは
ひと足先に戻り
必要な手を講じて
おいてくれ

はっ




さすがに
今夜はもう


邪魔は
入らないだろう

リオン
怪我が……





おまえに触れるほうが
楽になる



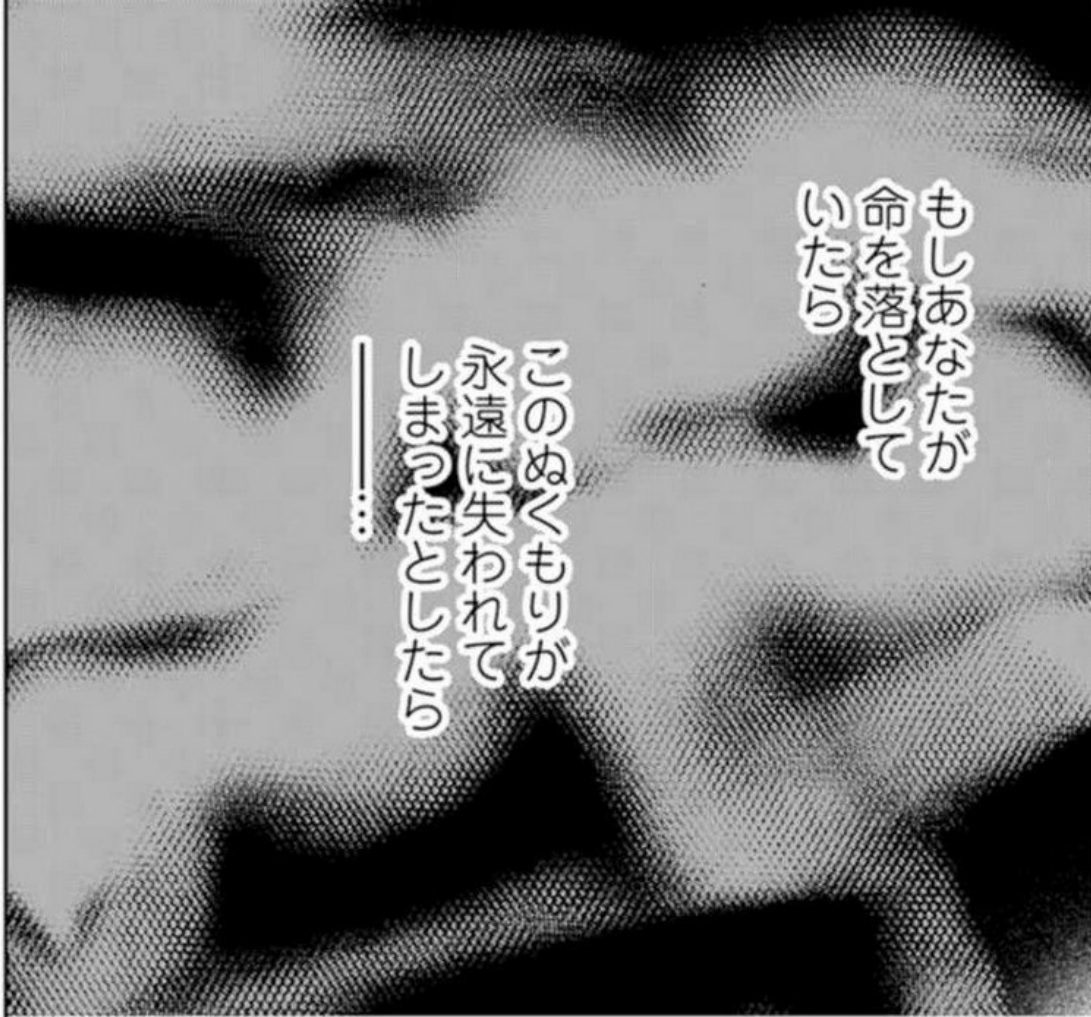
裸になって
みせてくれ



ス...







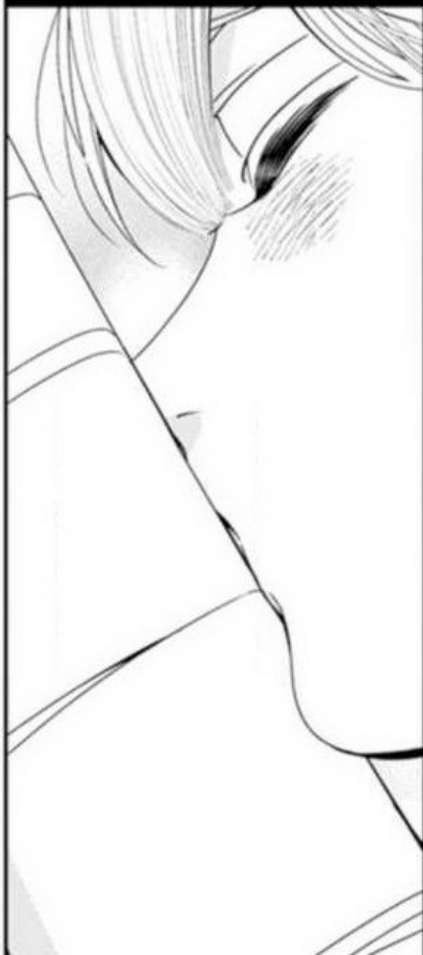
もしあなたが
命を落として
いたら

このぬくもりが
永遠に失われて
しまったとしたら
——！！



！

リオンを失うなんて…考えられない



あなたも
そう思っ
てくれた
なら

私は……

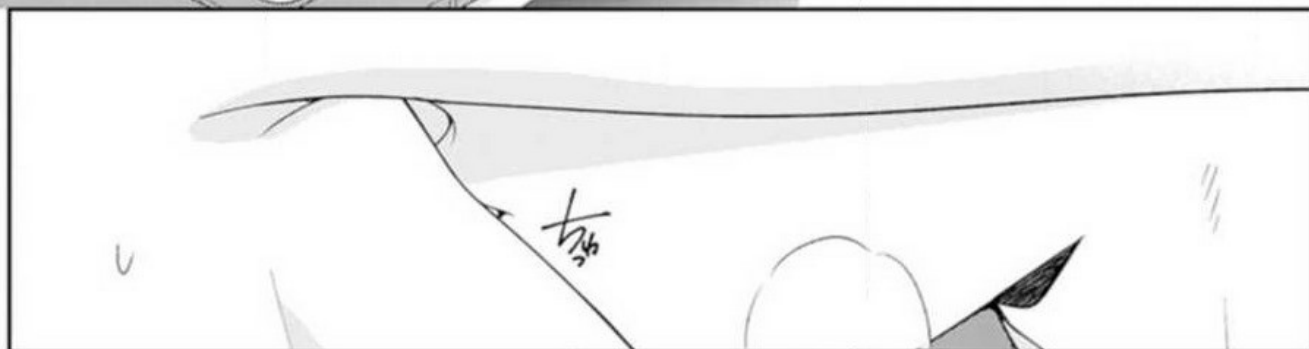
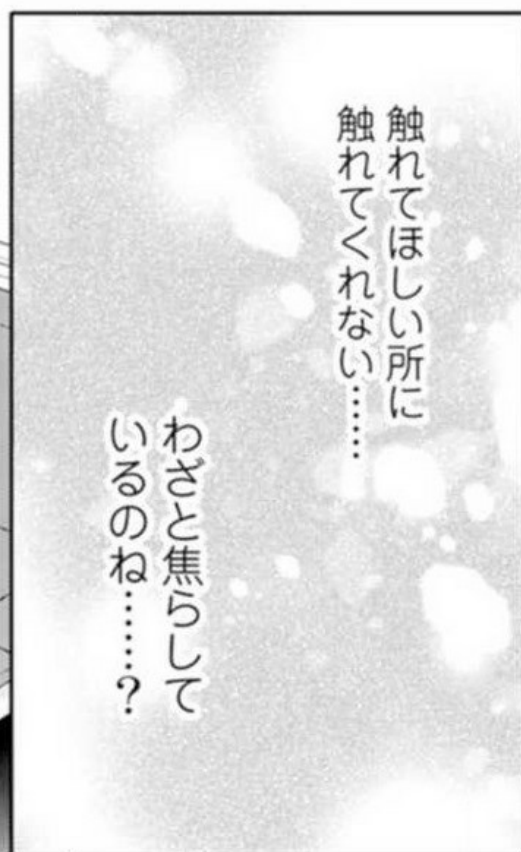




ほあ
ほあ

そんな顔を
して

かわいいな
セシリア



RIN SUMERAGI

皇りん

原作 池戸裕子

灼熱の王の

熱い指にとかされて

狂愛

6

乙女ドルチェ・コミックス







……いの



俺を見て



あなたが
欲しいの……っ

なら
わかるよな？

セシリア

えっ……？

俺は怪我を
しているし

おまえが
動いてくれないと
身体がつかないんだ

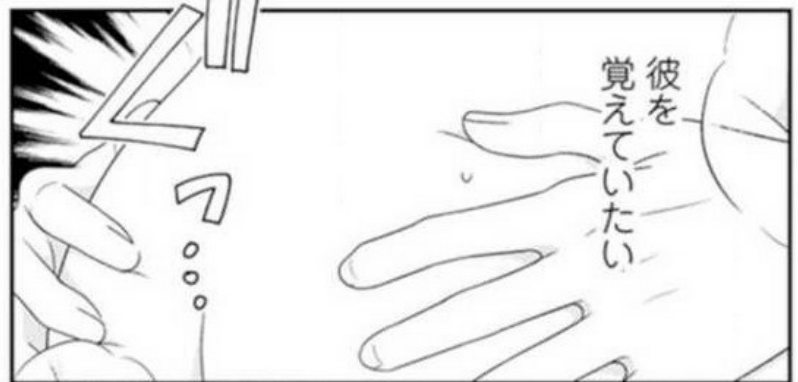


ん……っ

あ

リオン……

カッ
カッ
カッ

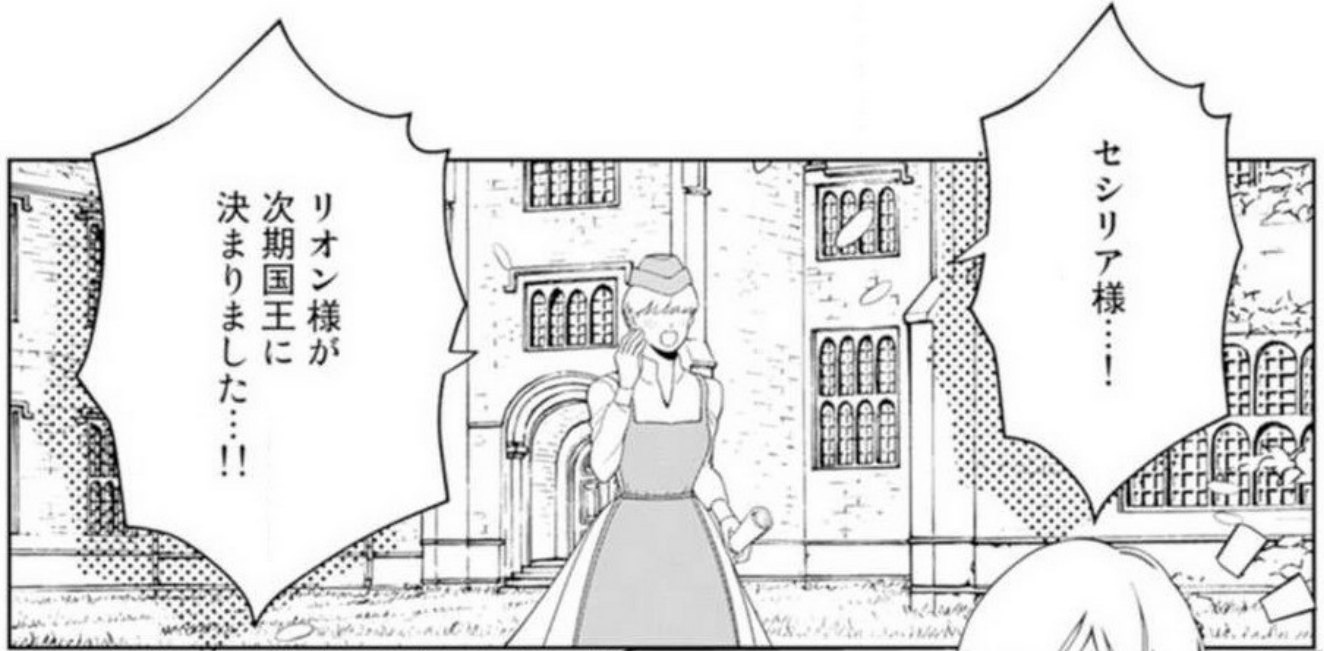


本当は
愛していると
言っほしい

妻としてずっと
あなたのそばに
いられたなら……

きれいだ
セシリア





セシリア様……!

リオン様が
次期国王に
決まりました…!!



セシリア様と
直接お話をしたい
とのことで

本日こちらに
戻られるそうです!

よかったですね…!
セシリア様!



よい話だけなら
嬉しいけれど……

ええ
そうね

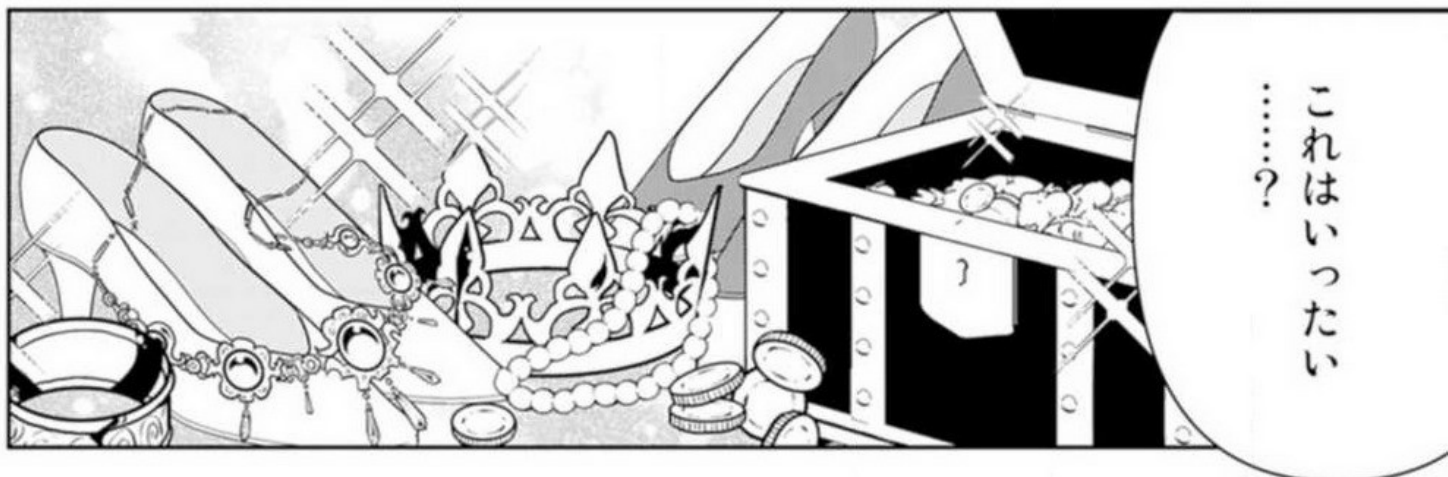


戻ったぞ



気持ちを
切り替えなくちゃ
……

でも忙しくしていた
リオンがせっかく
戻ってくるんだもの



……?
これはいったい



すべて
おまえのものだ

受け取ってくれ
セシリア



セシリア

別れよう



やっほじ...!

別れてそれで

言わないで

わかってる...
これは手切れ金
なのでしょ?



あなたが
王になれば

身分の違う私が
妻でいるなんて
許されるわけが
ないもの……


?

……頭では
わかっていても
惨めだわ

私ひとり
あなたに本気に
なって——……

待て
セシリア!

まるで違うぞ



俺はおまえが
好きなんだ

手放すわけが
ないだろう!!

最初 傲慢とは
言ったが

傲慢で生意気な
ところがいい

俺はおまえの
堂々としている
ところが好きだ

その手に武器は
なくとも

心に鋭い剣を
携えたような

自分の考えを
誰の前でも
臆せず言える

大女を認めますか？

申し訳ねえです

セシリア
みたいな女が
ずっと理想だった

だが
おまえを好きに
なればなるほど

後悔するように
なった

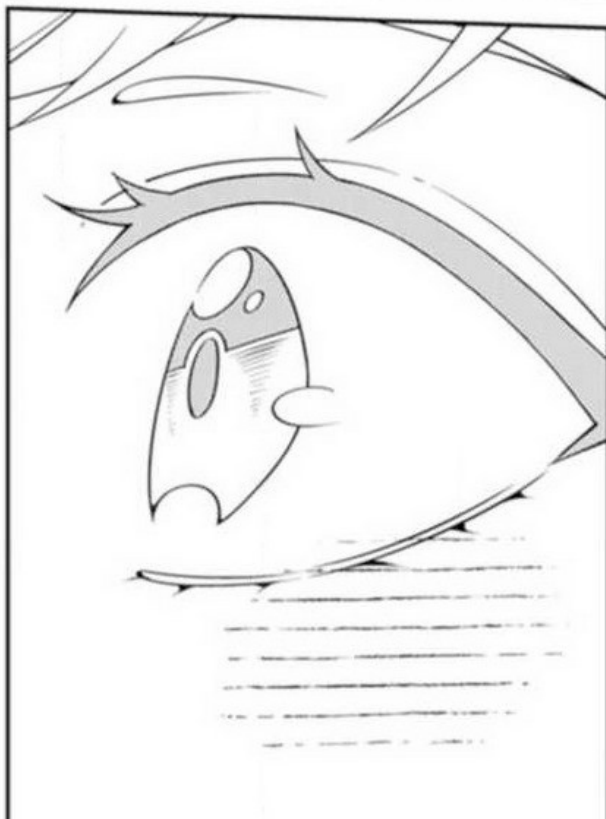
おまえには前から
興味があったんだ


機略でひっかけ
力でさらうような
やり方は間違っ
ていたと……

セシリア・
アルバーナなら


逃げないだろうと
わかっていたの
だからな

だから俺は





おまえと別れて
もう一度最初から
始めたかった




これは
手切れ金なんか
じゃない

俺たちの身分では
求婚の時に


男から女へ
贈り物をする
習慣があるだろ？



そのためのものだ



そんな俺を生涯
そばで支えられるのは
おまえしかいない



俺はこれから
国を治める立場
になる

セシリア・アルバーナ

俺と結婚してほしい





私……

私も……っ



愛しているわ……
リオン……

愛している

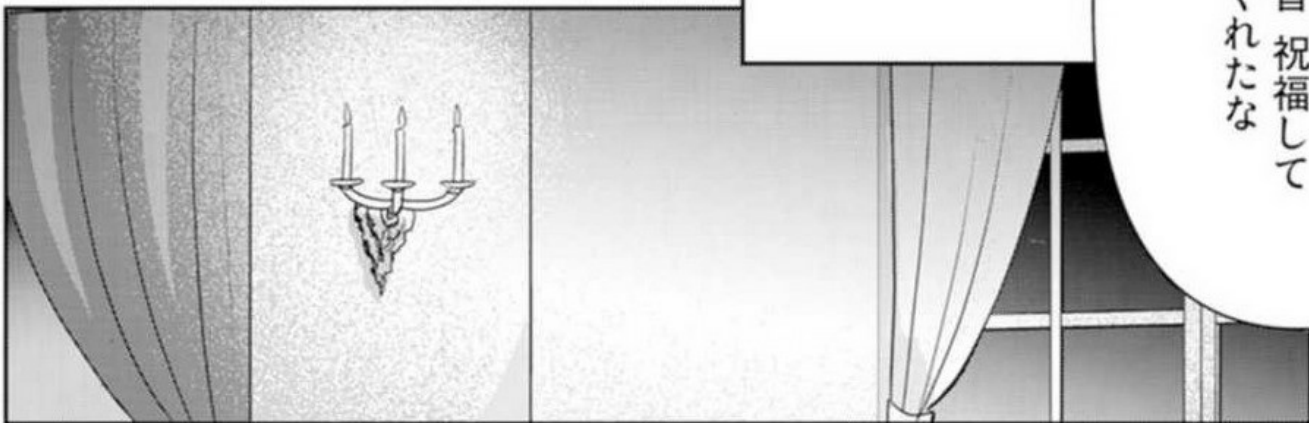
セシリア……

おめでとーございませす
リオン様！ セシリア様！


新しい
王と王妃の誕生だ

わああ






皆祝福して
くれたな



新王妃の祝福は
格別だったが



…しかし
これからが
始まりだ

ずっと
あなたの隣で
支えるわ



…セシリア

おまえに出会えて
よかった——…

✿ END ✿



初めてのコミカライズ"
難しかったです〜!!
この分貴重な経験になりました。
是非原作の小説も
読んで頂けたら嬉しいです!

Special Thanks
原作者 三戸先生
時恋さん・ゆのみさん
担当 宮坂さん
読者の皆様